2022 年度　クリニクラウンによる子どもの成長サポート事業　報告書

認定 NPO 法人　日本クリニクラウン協会

〒530-0053 大阪市北区末広町 3-11　天しもビル 3B
TEL：06-4792-8716/FAX：06-4792-8746
E-mail:info@cliniclowns.jp
http://www.cliniclowns.jp

2022 年度　クリニクラウンによる子どもの成長サポート事業　報告書

「TOOTHFAIRY」プロジェクトからご支援いただいた支援金は、2022 年度のクリニクラウン派遣事業・Web 事業の一部に活用させていただきました。ご支援いただき本当にありがとうございます。

みなさまのご協力のおかげで、全国 20 病院施設へ 68 回クリニクラウンが訪問することができ、683 人のこどもたちに「こども時間」を届けることができました。また小児病棟のこどもたちに向けての YouTube 配信では、閲覧回数 215 回（4/2 時点）となり多くの方にご覧いただくことができました。本当にありがとうございます。

	病院施設数	訪問回数	こども数
リアル訪問	9 病院施設	17 回	322 人
Web 訪問	17 病院施設	51 回	361 人
合計		68 回	683 人

YouTube ライブ配信	クリニクラウンとハッピーバレンタイン	閲覧回数	215 回

【訪問病院】

	病院名称	実施回数							こども数合計
1	札幌北楡病院	4	5月11日	6月22日	7月13日	9月14日			15
2	日本大学医学部附属板橋病院	6	6月6日	6月20日	7月4日	7月25日	2月6日	2月20日	68
3	群馬県立小児医療センター	4	5月25日	6月22日 ※リアル訪問	7月27日 ※リアル訪問	8月24日 ※リアル訪問			81
4	千葉県こども病院	6	6月2日	6月16日	7月7日 ※リアル訪問	7月21日 ※リアル訪問	8月4日	8月18日	92
5	静岡県立こども病院	6	5月11日	5月25日	6月1日	6月8日	7月6日	7月13日	43
6	大阪市立総合医療センター	6	5月17日	6月21日	7月19日	8月16日	9月20日	3月14日	22
7	大阪医科薬科大学病院	4	5月18日	6月15日	7月20日	8月17日			52
8	兵庫県立尼崎総合医療センター	4	6月27日	7月25日	2月27日	3月27日			19
9	福岡市立こども病院	4	5月24日	6月28日	7月28日	8月23日			18
10	霧島医療センター	2	5月27日	6月2日					3
11	難病のこども支援全国ネットワーク	1	2月4日						6
12	一般社団法人Burano	4	5月26日	7月7日 ※リアル訪問	11月29日 ※リアル訪問	1月23日 ※リアル訪問			18
13	TURUMIこどもホスピス	2	10月27日	11月18日 ※リアル訪問					11
14	児童発達支援・放課後ディサービスMayMay	1	7月31日 ※リアル訪問						20
15	放課後児童デイサービス　プリモ	5	5月23日	7月19日 ※リアル訪問	8月12日 ※リアル訪問	10月13日 ※リアル訪問	12月22日 ※リアル訪問		47
16	大阪母子医療センター	4	8月19日	9月16日	10月21日	11月18日			42
17	訪問看護ステーションベビーノ	2	10月22日 ※リアル訪問	12月19日					30
18	放課後等デイサービスむっく	1	12月10日 ※リアル訪問						10
19	大阪発達総合療育センター	1	12月11日 ※リアル訪問						77
20	聖路加国際病院	1	3月8日						9
21	YouTubeライブ配信（公開・アーカイブ閲覧）	1	2月14日						215
		69							898

◆活動の様子（リアル病院訪問）

コロナ禍、新型コロナウイルス感染症対策のマニュアルに基づき、健康診断書類・ワクチン接種証明を事前に提出し、訪問前に PCR 検査を行うなどの対策を実施しました。また、新しい行動変容での訪問となり、訪問の際、クリニクラウンは、「マスク着用時にはフェイスシールドを着用」「こどもたちと 1 メートル以上離れる」「接触や道具の受け渡しはしない」「医療スタッフと接触しない」「病棟内、病室内の環境にできるだけ触らない」など、病棟スタッフと、こどもたちと安心安全に関わるための細かい打合せを毎回し、実施しています。

クリニクラウンの病棟訪問は、病室を個別に訪問し、今その時、こどもの気持ちや状況をみて関わり方を変えていきます。1 回の訪問時間は 1 時間～2時間。クリニクラウンはこどもだけなく、保護者や医療スタッフとも積極的にコミュニケーションを図ります。病棟の療養環境をつくっているのは、そこにいる人であり、そこにいる人たちのコミュニケーションが豊かになることや、こども自身が人と関わることを楽しいと感じてもらうことが、入院中のこどもの QOL 向上につながると考えているからです。

①カンファレンス

訪問前には必ずその日の病棟の様子を病棟スタッフに確認する時間をとります。安心してこどもたちと関われるように、訪問の順番など衛生面の確認を毎回行います。また、こどもの症状だけではなく、遊びを通してこどもの成長や発達をサポートする上で必要なことを確認します。

②-1 病棟訪問の様子（カメラマンの撮影不可のためありません）

②-2 施設訪問の様子

③後カンファレンス

訪問後に、病棟スタッフと訪問の感想を共有しました。コロナ禍の今の状況やこどもたちの様子、訪問中に感じた家族やこども達の様子や変化を伝え、こどもたちの成長や発達という視点でこども達のことを話し合いました。

◆活動の様子（Web 訪問）

Web カメラのビデオ通話を使い、こどもとクリニクラウンがリアルタイムにつながります。
感染症の心配なく、病院訪問とは違うリモートでの「出会い」や「遊び」の機会を提供し、こどもの成長をサポートします。

当日に、スタッフの方と打合わせを行い、オンラインでの関わるこどもの様子や人数などを確認や通信状況などの確認を行います。

②実際の訪問

【写真:Web 訪問の様子】

クリニクラウン Web 訪問をふりかえって

日本クリニクラウン協会　直理うみ（クリニクラウンネーム　う～み）

コロナ禍にはじまった Web 訪問も 3 年目となりましたが、やればやるほど Web 訪問の可能性が広がっているように感じます。Web 訪問の強みは、遠近法を利用した遊びや、ウクレレやアコーディオン等病院訪問の時にあまり使用しない大きな楽器を演奏したり、画面に映らない空間を利用し、こどものイマジネーションを引き出したりと楽しい関りが生まれることです。

それ以外にも、実際の訪問では感染面の考慮により関わることができなったこどもや遠距離で実際の訪問になかなか行けなかったこどもも Web 訪問なら出会え、遊ぶことへの制限を緩和することができました。初めは慣れない Web 訪問でしたが、研修会や実践するの中で、画面の操作や Web ならではの空間遊びなど工夫することで、画面越しに関わるこどもや家族、スタッフを実際の病院訪問のようにより感じることができています。それに加えて、Web 訪問を何度か経験しているこどもが、クリニクラウンを真似して、クリニクラウンのような遊びや関りを自分から投げかけてくれるようになり、新たな遊びに展開するということもあり、こどもが主体となった遊びにつながっています。

こども以外にも Web 訪問では、実際にこどもに接する病棟スタッフがタブレットを操作するため、病棟スタッフとクリニクラウンの連携がより重要になってきます。そのため、実際の訪問よりも病棟スタッフとのやりとりが増え、一緒に訪問することで、こどもの反応や関わり方などを共有することができ、一緒にこどもの療養環境をよりよくする仲間同士の関係性が強くなりました。まだまだ、これからも Web 訪問だからこそできることが増えてくるように感じます。今後も継続して Web 訪問を応援してくださると嬉しいです。

●こどもたちから届いたメッセージ（一部抜粋）

●YouTube ライブ配信

入院中のこどもたちに向けての YouTube ライブ配信を実施。ライブ配信の告知としてポストカード（4000 枚）とポスターを作成し全国のクリニクラウン訪問先病院・施設 70 箇所へ配布した。

日程	タイトル	閲覧回数 （4/2 時点）
2023 年 2 月 14 日	クリニクラウンとハッピーバレンタイン	215 回

●今後の課題と取り組み

これまでの活動を通して見えてきたことは、「①小児病棟では、スタッフや家族は、こどもたちのために、「外部との交流の機会・コミュニケーション・体や心を動かす機会・感情表現・表出の機会・こども同士の交流」を求めている。②小児病棟で自由に使用できる Web 環境やオンラインの活用状況や要望は病院ごとに異なる。事例をあげながら、その病院に合わせた支援体制が必要。③実際の対面での訪問については、病院ごとに感染症対策や面会制限などの対応が異なるため、他病院での実績や事例をあげながら個別に対応していくことが必要です。④長期化するコロナ禍、こどもたちを支える大人が疲弊している。病棟スタッフや家族が、こどもたちのために何かできたという達成感や一緒に楽しむことがストレス軽減につながる。」ということです。上記のことを考え、今後も継続的な支援の必要性を感じています。

また、実際の訪問が増えてきており、訪問再開に向けてのトレーニングや感染症対策などの研修を実施しています。コロナ禍、クリニクラウンのライフスタイルの変化などもあり、マンパワー不足を解消していくことが課題だと考えています。今年度は 3 年ぶりとなる新規クリニクラウンの募集・養成を実施し、より多くのこども時間を届けていきたいと思います。

社会的に感染症対策が緩和していますが、多くの病院は慎重な対応をとっており、病院と連携をとり、工夫をしながら、小児病棟の療養環境を支えていきたいと考えています。たくさんのこども時間を届けていくので、これからもどうぞよろしくお願いします。